

インド、2カ月連続の利上げを実施 長期的な経済成長のためインフレ抑制を優先

インド準備銀行（中央銀行、RBI）は6月8日の金融政策決定会合において、政策金利を0.5%引き上げることを決定しました。5月4日に続く追加の利上げとなります。RBIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

▶ 経済成長見通しを維持、インフレ抑制を優先

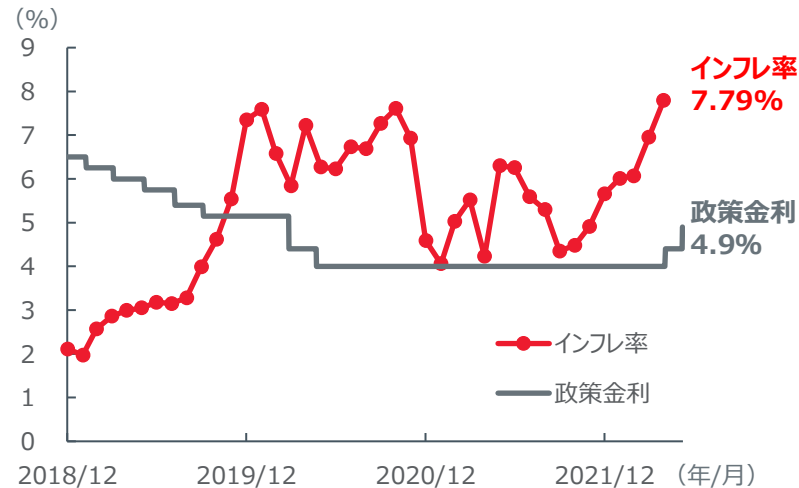
- RBIは6月8日、本年度の第3回金融政策決定会合において、5月4日の利上げに続き、政策金利であるレポ金利を0.5%引き上げて4.9%とすることを決定しました。かねてよりRBIのダス総裁は6月の利上げを公言しており、事前の予想通りの追加利上げとなりました。
- 世界的にはスタグフレーション（景気後退と物価上昇の同時進行）が懸念される中、RBIはインド経済見通しについては経済活動の回復の力強さを背景に、農村部、都市部共に景気回復に自信を見せており、2022-23年度の実質GDP（国内総生産）成長率見通しを前年度比+7.2%に維持しました。
- RBIは国際原油価格の高止まりを想定した上で、2022年の消費者物価指数（CPI）上昇率（インフレ率、前年同月比）見通しをこれまでの5.7%から6.7%に引き上げ、インフレターゲットである4%±2%（2%～6%）の範囲を当面上回る水準で推移すると予想しています。一方でモンスーン（雨季）の降雨量は例年並みと予想され、農産物生産や食品価格の安定に寄与すると見られています。RBIは声明文の中で引き続き経済成長を支える一方でインフレ率がターゲットのレンジ内に収まるようインフレ抑制を優先するスタンスを明確にしています。

▶ 市場の反応と今後の見通し

- 今回の利上げは概ね市場予想の範囲内であり、8日の株式市場、債券市場、為替共に影響は限定的、小幅な動きとなりました。（10年国債利回りは前日比-2bps（-0.02%）、SENSEX指数は前日比-0.4%）
- インフレ率は当面高い水準で推移すると見えています。RBIは引き続きインフレ抑制を優先し、今後の会合においても利上げを継続すると予想しており、インフレ動向には注視が必要と考えています。（次回金融政策決定会合は8月に開催予定）

【政策金利*とインフレ率**の推移】

（2018年12月31日～2022年6月8日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*レポ金利、**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。
新基準（2012年=100）による統計を使用。2022年4月まで。

【SENSEX指数の推移】

（2018年12月31日～2022年6月8日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※配当無し（プライス）、インドルピーベース。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

＜当資料に関してご留意いただきたい事項＞ ○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式や業種・テーマについての組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。